福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

発行
(財)第五福竜丸平和協会
〒136-0081 東京都江東区
夢の島3-2
都立第五福竜丸展示館内
電話 03-3521-8494

放射線と放射能

服部学

十月九日の時点で前号の原稿を書いた後にまた入院してしまい、退院したばかりなので臨界事故についての新しい情報はあまり知らない。

前回自己制御が働いた原因として温度上昇による体積の増加を挙げたが、放射線で硝酸ウラニルの水が分解して酸素と水素の小さな泡になったことを見落としていた。少なくとも最初のパルスがすぐ収まったのはその効果ではないだろうか。それからもんじゅと書いたのは常陽の単純ミスである。どうもすみませんでした。

今度の臨界事故は全く不思議なことが多かった。放射能は殆ど容器から漏れず、強い放射線だけが出てきたようである。事故の性質がわからなかったのだから仕方が無いのかもしれないが、結果から言うと三五〇mという避難距離は少し短かったし、一〇㎞という屋内退避は必ずしも必要が無かった。

放射線と放射能という言葉はよく似ているが意味は少し異なる。放射線と言うのはX線のようなもので、物質を透過し人間に悪さをする。ウランやラジウムのような物質はこの放射線を出し続けている天然放射性物質である。

キュリー夫人は放射性物質が放射線を出す能力のことを放射能と名付けた。死の灰のような人口放射性物質も放射能を持っているわけである。つまり放射性物質の放射能で放射線が出てくるわけである。それがのちに放射能を持っている物質のことも放射能と呼ぶようになった。

放射線にもいろいろある。α線は高速のヘリウム原子核だし、β線は高速の電子である。これらは透過力が弱い。それだけにα線やβ線を出す放射性物質が体内に入ると逆に問題である。γ線は光やX線の波長が極めて短い電磁波で透過力が強い。中性子は物質の原子核の半分以上を形作っているものだが、原子核を離れて一人歩きをすると透過力の強い放射線になるし、人体への影響も非常に大きくなる。またこの中性子は原子爆弾や原子炉のエネルギーの発生源である核分裂の連鎖反応の仲立ちをする。今度の事件はたまたまこの中性子が主力になって外に出てきたものである。

放射線の人体に対する影響もいろいろあるが、わかりにくいのは少量の放射線の確率的影響なるものである。つまり少量の放射線が多数の人体に当たっても、総ての人に同じような影響が少しずつ現れてくるのではなく、大部分の人は何ともなくても少数の人に白血病やガンの病状が現れ、その発生確率が放射線の量によって変わるのである。

たとえばチェルノブイリの事故では、外に出た放射線物質のごく一部が風に乗って日本にも流れてきた。バックグラウンドの放射線が一週間ほど一〇%程増加している。一億人の人が総てこの放射線量を浴びたと計算すると、今後三〇年間に三〇人ほどの人が白血病やガンで死ぬことになる。日本人を三〇人まとめて首を切れば大事件だが、三〇年間に三〇人ではわからない。おまけに放射線でガンになった人と、別の原因でガンになった人とは同じガンの病状で区別がつかない。つまり原因と結果の因果関係が立証できないのである。これが放射線影響のいやなところである。今度の事故でも一〇㎞離れた所にいた人が今後三〇年間にガンになっても、放射線が原因かどうかはわからないのである。

繰り返して言うが、今度の事故で放射線物質が外に出なかったのは本当に良かったと思う。二〇時間も臨界状態が細々と続いた不思議なことについては機会があればまた私見を述べたい。

（立教大学名誉教授・協会理事）

〝投稿欄が世論を動かす〟

情報誌に「沈めてよいか第五福竜丸」の投書紹介

いまは自動扉になった展示館の入り口を入って、すぐ前の階段を上がると大きな船体をバックに大きめの展示パネルが目に飛び込んでくる。四方四方の特太明朝体で一文字一文字ていねいに手で書かれた黒い文字は、投書「沈めてよいか第五福竜丸」の全文である。

一九六八年三月十日、朝日新聞「声」欄にのった武藤宏一さんの投書で、第五福竜丸保存の大きなきっかけとなったものだ。

以前は館内の天井のない事務所の囲いいっぱいに展示されていて、こどもたちが先生にうながされて声を上げて読む声が毎日のように聞こえてきたものだ。

「…知らない人には心から告げよう。忘れかけている人には、そっと思い起こさせよう。そして沈痛な気持ちで告げよう。いま、このあかしがどこにあるかを。…」

もう文字がだいぶ色褪せてしまっているが、展示館の多くのパネルの中でも最も〝有名で、人気がある〟大切な展示物で、それは展示館のポリシーを示してさえいる。

最近、この投書のことがある「情報誌」に登場した。

〝中学生のためのスタディ&ライフ情報誌〟と銘打った「HELLO中学生」の十一月号で、発行は朝日新聞大阪本社宣伝部。その見開きページにある読者と編集部を結ぶ「教えて朝日新聞」欄「今月の素朴なギモン」のコーナーである。

質問するのは兵庫県尼崎市の十三歳の中学生。

――「声」の欄に載る投稿はどうやって選ぶの？友達のお母さんの名前を「声」の欄で見つけてびっくりしました。『何度もチャレンジしてやっと載ったのよ』と笑っていましたが…。毎日たくさんの投稿があるんですか？

「答えてくれた人」は、大阪本社「声」欄の編集長北村秀雄さん。

――「声」の欄は読者の意見を掲載するコーナー。「社説」と並んで一つの紙面を作っています。

（中略）毎日全国で三〇〇通ぐらい届く中から載るのはたった九通。（略）「声」の欄は読者からの反響が大きいですね。一番すごかったのは、かなり昔になりますが、一九五四年にビキニ島周辺での水爆実験で被爆した漁船、第五福竜丸についての投稿でした。東京の夢の島（埋め立て地のゴミ処理場）に船体が捨てられているのを見た読者が「声」の欄に投稿してきたんです。これを読んだ人々から反響があり、復元・保存運動が始まりました。ついに第五福竜丸展示館が作られましたからね。投稿欄が世論を動かす、という象徴的な出来事でした。今でも館内にはその投稿の切り抜きが張られているそうです（以下略）。

小さな写真だが投書と投書の新聞、沈みそうになっている船の写真がつぎのコメントをつけて掲載されていた。＜「声」の欄の投稿がきっかけで復元・保存が果たされた第五福竜丸、展示館では船体とともに投稿の内容がパネルで紹介されている。＞

投書そのものが紹介されていなかったのがなんとも残念だったが、投書をこのように紹介した編集長の見識に感動した。

今日も多くの中学生が来館し船を見つめて投書に目を注いでいる。この質問をした中学生村上友希君は「投書」を読んだだろうか。船に会いにきてくれるだろうか。

社会科見学でにぎわう

十一月は小学校の社会科見学で展示館のもっとも多忙な月。今年も次々に学校が訪れた。京都、岩手、福島から中学校、鹿児島からは有明、高山高校、焼津からもいくつかの町会の見学があった。東海村の核燃料加工工場JCOの臨界事故の影響もあってか、放射線の人体への影響への関心も高く質問も多彩。なかには、ここは大丈夫かという質問もある。十九日来館した横浜の神奈川学園中学校一年生二百名は館内をいっぱいになって説明を聞き見学した。

船尾下いっぱいにひろがって。 神奈川学園中学校

核兵器のない地球を―「世界のヒバクシャ」写真展の願い

森下一徹

この地球を核兵器のない地球にして、二十一世紀を生きる人たちに引き継ぎたい、それは核兵器を作り出したわれわれの世代の仕事ではないのか、二十一世紀を生きる子供たちを、核戦争の恐怖から解放したい、そんな思いを込めて「世界のヒバクシャ」写真展を、核兵器がなくなる日まで続けることを決意したのです。多くの方のご協力を得て世界一〇〇カ国で開催しつづけることができるならば、反核の世論を喚起できると確信する思いからです。

水爆ブラボーのクレーター(撮影・豊崎博光)

この写真展に参加、提唱している写真家は五人（下記）、特別出展として、広島の原爆投下直後を撮影した、松重美人さんの作品＝「原爆投下三時間後の御幸橋（爆心から二・三キロ）で救援を待つ被爆者」が加わっています。

「世界のヒバクシャ」写真展には、私たちの趣旨に賛同くださった、多くの著名な方々に「呼びかけ人」になっていただいています。また、広島・長崎両市は写真展を後援するとともに、広島市長、長崎市長からの力強いメッセージもいただいています。

以下は、写真展の趣旨と、展示される作家の紹介、この運動のすすめ方を説明してご協力を要請しているお願いの要旨です。

※

「私たちは、広島・長崎の被爆の実相を知ったうえで、世界の＜核＞被害を目撃した写真家の視点でとらえた映像を、世界の人々に紹介し、見る人に＜核＞とは何かを問いかけます。

私たちの仲間の主な作品は、次のとおりです。

伊藤孝司＝広島・長崎で被爆した韓国・朝鮮人たち

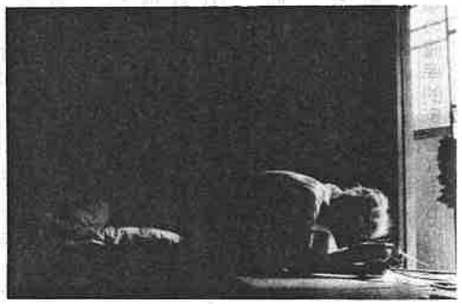
桐生広人＝ムルロワ、セミパラチンスクの核実験による被曝者など

豊崎博光＝ネバタ、オーストリアの核実験の風下の人々など。

本橋成一＝チェルノブイリ原発事故の風下の人々など

森下一徹＝広島・長崎の日本人原爆被害者など

私たちの作品は世界の核被害（中国・インド・パキスタンを除く）に遭った人々を撮った記録です。日本ではドキュメント写真家はなかなか表舞台に立てません。ですから私たちは、ほとんど一般には無名です。しかし私たちは広島・長崎の惨禍を受けた被爆者を知った、確かな目で「世界のヒバクシャ」をとらえました。


被爆者富永初子さん。　朝日の中でラジオのチャンネルを探す(撮影・森下一徹)

「世界のヒバクシャ」写真展は、オリジナル・プリントで一〇〇点を展示します（パネルのサイズはたて594よこ420ミリ）。説明はその国のだれにでもわかる言葉に翻訳し、パネルに入れて、そのまま展示できる状態にして送り届けます。一セットを送り出す費用は約三〇〇万円かかりますので、その募金を募っています。三〇〇万円集まり次第、つぎの国に送り届けます。写真展を送り届けた国でも募金を募ります。基金では写真展とともに被爆者や写真作家の講演依頼などにも応じていきます。」

※

この写真展を多くの国で開けることを念願しています。

すでに国内では広島平和記念資料館で展示しました、来年は、長崎市と名護市が予定されています。若い人たちに見てもらいたい、とくに平和・非核宣言を決議した自治体で開催していただきたいと願っています。

◇「世界のヒバクシャ」写真展を広める会＝〒151―0053
東京都渋谷区代々木1―35―1
TEL03―3379―5739
FAX03―3320―0681

「新アジェンダ連合」とこれを支援する世界のNGO

斎藤鶴子

核兵器が地上に姿を現わした初期、数発だった核兵器は、半世紀をこえたいま、その数は数万発といわれている。

核兵器の進歩と拡がり、さらには原発が地球を蔽っているこの核時代に生き、「全国的破滅を避けるという目標は他のあらゆる目標に優位せねばならぬ」核兵器に対し、人間の生命を守ろうと続けられてき人びとの核兵器廃絶運動の長い歴史の中で、いま、はじまっているこの運動の目新しさ、力強さは、核兵器非保有国の立上りであり、これを支援する世界のNGOの活発な動きである。

十月二十五日頃だったろうか、次のような印刷物が、世界のNGOが力を合わせ核廃絶をめざして活動している「アボリション二〇〇〇」（日本では、消費者団体、宗教者団体、婦人団体、原水協、原水禁原子力資料情報室など七〇以上の団体が参加している）の中継国体である「ピースデポ（平和資料協同組合）」から送られてきた。

〝首相・外相および外務省政策担当者に「新アジェンダ連合」国連決議案への賛成票を求める手紙・ファックスを送って下さい。

「新アジェンダ連合」とは、その外相たちが昨年六月九日の共同宣言で、核兵器および核兵器能力を持つ国々に対し、核廃絶への明確な誓約と核廃絶に向けた緊急の暫定的措置を要求した勇気ある国家グループ（アイルランド、スウェーデン、南アフリカ、エジプト、ニュージーランド、メキシコ、ブラジルの七カ国：当初スロベニアも参加したが、途中で脱退）のことです。…以下省略〟。

昨年、新アジェンダ連合が国連に提出した核廃絶を求める決議案には、一一四カ国が賛成し、反対は十八カ国、棄権は三十八カ国であった。

NATO参加の核非保有国はトルコを除き十二カ国全部がアメリカの猛烈な圧力にもかかわらず棄権にまわった意義は大きい。

中国は核保有国のうち唯一棄権にまわっている。

しかし、日本は相変わらず五年間続いている精彩を欠く「究極的核廃絶」の決議案を提出し続け、新アジェンダ連合の決議案に棄権にまわった。それは、被爆国としての日本の立場、多くの国民の願いを裏切るものであり、世界の人々のめざす核廃絶の動きに背を向けるものであった。

今月開催される国連第一委員会の採決で日本政府は、是非、「新アジェンダ連合」の決議案に賛成票を投ずるようにと、小渕総理、河野外相、他担当者へ、個人または団体として要請してほしいという印刷物であり、私は多くの友人に送って協力を依頼した。

いま、同時にNGOで活動している中心メンバーであるディビッド・クリーガ氏（核時代平和財団所長）他も、来日し、日本のメンバーと共に日本政府に働きかけている。

日本政府は、新アジェンダ連合など核を持たない国ぐにと協力して、核保有国の核廃絶へのにぶい動きにゆさぶりをかける責任があると思う。（協会理事）

一月二十二日に、「エンジンお帰りなさい集会」

十月末はじまった第五福竜丸エンジン展示のための建屋建設工事はコンクリートの土台づくりがやっと終了、屋根をつけるための鉄骨工事に入った。床面積25㎡の小さな建物で、夢の島に吹き付ける風雨がしのげるか心許ない面もあるが、やっと実現の感慨ひとしお。工事の進行を見守る毎日で、エンジンの搬入が待ちどおしい（搬入日未定）。建屋完成は十二月二十四日となる。

第五福竜丸エンジンを東京夢の島へ都民運動と共催して開く記念の集いの日程はつぎのように決まった。

・第五福竜丸エンジンお帰りなさい集会

・二〇〇〇年一月二十二日（土）
午後一時半～二時半

・第五福竜丸展示館前広場

いま集会の内容を豊かにしようと協議が進められていて、詳細・ご案内は年内に発表される予定だが、どうかみなさん、船とエンジンに会いにおいでください。原水爆のない21世紀へさらなる出発をするエンジンの鼓動に耳を傾けてくださるようお願いします。